

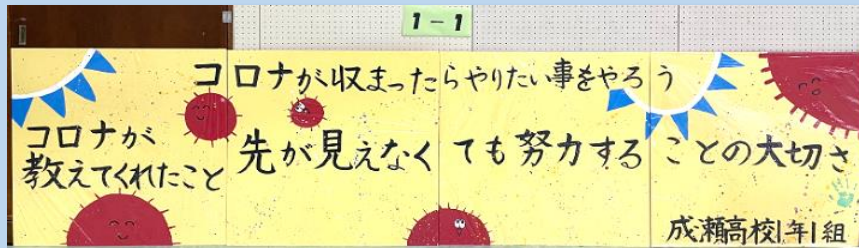


文化発表会 スローガン「凌（しのぎ）」 ～コロナに負けない！～その2（当日編）

ついに9月4日（土）文化発表会当日を迎えました。学年別の登校、限られた時間の中で舞台発表、映像鑑賞や展示鑑賞などを実施しました。9月7日（火）の閉会式に続いて Teams 配信による生徒会ビンゴ大会を実施しました。PTA の皆さま、多くのご協力をいただき、ありがとうございました！つかの間の楽しい時間、密を避けながらのビンゴ大会は新しいスタイルでした。

しばらく校舎外のフェンスに飾られた看板は、本部の生徒により9月10日（金）、静かに片付けられました。日常生活へ戻ると同時に、来年度樺祭のスタートを切ったとも言えます。43期、44期生へバトンが引き継がれていきます。

文化発表会後に各クラス、各文化部よりコメントを貰いました。彼らの想いをご覧ください！



1 - 1

1組はクラスの看板製作と、もう一つの+a企画制作（ステンドグラス）も手掛けました！クラスにとってとても良い経験になったと思います。



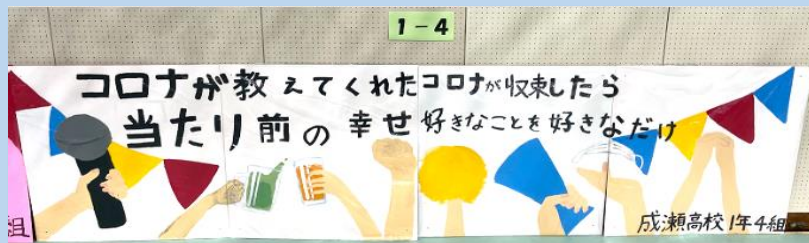
1 - 2

クラスで看板を作るだけではなく、他クラスの人とも交流できたので友達の輪を広げることができました。文化発表会でクラス全員で作品を作成できてよかったです。

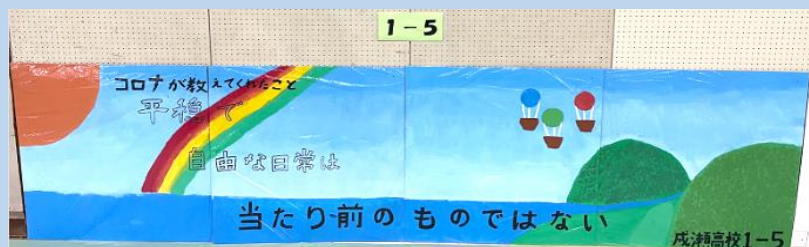


1 - 3

看板も短い時間で質の高いものを作れていて、この文化祭にける思いを感じました。クラスの団結力も強くなり、今回の経験を生かして次のイベントなども頑張りたいです。



1 - 4	準備が始まると、それぞれが得意なことを見つけてクラスの生徒同士仲良くなれたのが良かったと思いました。形が変わったからこそ得られたクラスの絆だと感じました。
-------	---



1 - 5	コロナがあつてやりたかったように文化祭はできなかったけれど、制限がある中でもクラスで協力して成功で終われたからよかったです。
-------	--



1 - 6	クラス T シャツは黄色なのでクラスの意見を取り入れて虎をモチーフにしました。また六の旧字である「陸」を行書体で入れました。なるべく大きく描くために何度も下書きをするのに苦労しました。シンプルですがかっこよくできたとします。
-------	--



1 - 7	クラス全員が一つになるという思いを込めてTシャツに一人一人手書きで名前を書きました。背中に大きく虎を乗せることで力強いものに仕上がりました。短い期間で良いデザインができてよかったです。
-------	--



2-1	クラスの雰囲気をつかんで表現するのが難しかったです。ですが、クラスみんなが T シャツを着て楽しんでくれているのを見て、とても嬉しかったし、やりがいを感じました。
-----	---



2-2	背景デザインや配色を何度も話し合い、「結」の文字を際立たせていきました。クラスで協力して作業し、コロナの中でもみんなにメッセージを訴えかけられたと思います。
-----	--



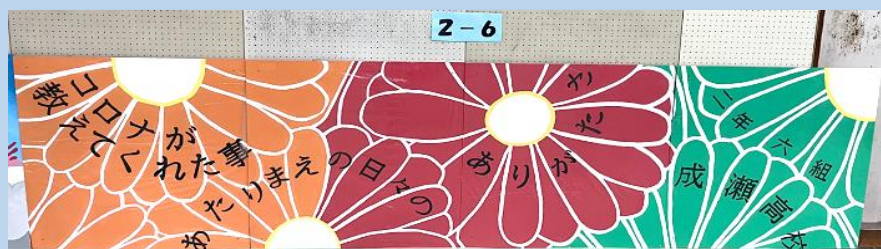
2-3	例年とは異なる文化祭で色々準備やプログラムに変動がありましたがどんな形になろうと全員が全力で楽しむことができたのなら成功なのではないかと思います。学年行事（学校行事）がもっと増えたらいいな。
-----	---



2-4	クラス一丸となって看板作りに励みました。私たちの文字は永劫回帰で、意味は一瞬一瞬を大切にすることです。コロナの影響で日常は当たり前ではないことを学び、これまでの日常を大切にしようと思いました。
-----	--



2-5	文化発表会お疲れ様でした。今年は例年通りに行かなかったのが残念でしたが、看板製作やうちわ作りと、出来る範囲のことで楽しめたのが良かったと思います。
-----	---



2-6	例年通りとはいかないものの、文化本部や先生方が考えてくれた企画によってクラスで協力してより仲を深めることができました。
-----	---



2-7	初めはうまくいわずに全てやり直したりと、順調ではありませんでしたが、クラスみんなが全力で協力をしてくれ、満足のいく作品が完成しました。
-----	---



3-1	看板制作中、普段関わりの少ない人ともたくさん話せて、思い出に残る良い行事になったと思います。今もコロナ禍であることや、例年とは違う形で開催せざるを得ないことから中止の話も出ていた中で、開催して下さって本当にありがとうございました。
-----	---



3-2	今年は文化祭が文化発表会と言う形になってしまい、多くの生徒は満足できなかったと思います。この状況の中でも生徒のために最善を尽くしてくれた文化本部や先生方には感謝でいっぱいです。ありがとうございました。
-----	---



3-3	今年は高校生活最後の年だったので、思い出となるクラスTシャツを作ることができて嬉しかったです。文化本部やクラス文化委員などの方たちが準備してくださったおかげで文化発表会を行うことができました。看板製作はクラスで協力しながらの作業だったので完成したときは達成感がありました。
-----	---



3-4	今回の文化発表会、正直最初は、コロナに関する看板を製作すると聞いて、文化祭の代わりのようなものなのにこのようなお題では楽しむことができないのではないかと考えていました。しかし、クラスの皆のお陰で、予想とは違い看板製作はとても楽しいものとなりました。私のクラスの看板の「なんだろうなんでもかんでもコロナに結びつけるのやめてもらっていいですか？」は、現代を生きる若者たちの気持ちを表現したような一言で、私自身もとても共感することができました。そしてYouTube風に仕上げることで面白さもはっきりと出ていて、見ていて飽きない、とても大好きな看板となりました。看板に描かれた担任の松村先生を色んな方に「似てる！」と言って貰えてとても嬉しかったです。皆で頑張って最後までこだわり抜いたことで素晴らしいものに仕上げる事が出来たと思います。クラスの皆で一つのものを製作することがこれほど楽しいこととは思いませんでした。クラスの皆には感謝しかありません。 もちろん、今回文化発表会を企画してくださった先生方や文化本部、他の方々にも心から感謝申し上げます。本当に楽しい文化発表会でした。ありがとうございました。
-----	---



3-5	どのクラスも個性豊かな看板で見ていて面白かったです！来年は元の文化祭ができることを心から願っています！
-----	--



3-6	クラスで団結して看板を作成することができました。コロナ禍で思うような文化祭はできなかったけど、少し思い出を作れたと思います。
-----	--



3-7	クラス一人一人がやる気とこだわりを持って制作に取り組んだことで、いろんな意見をたくさん聞きながら制作しました。また制作外でも積極的に動いてくれたおかげで効率よく進めることができ、クラスが一つになったと感じられた良い思い出になりました。
-----	---

文化部

漫画・イラスト部	今回は展示での参加でしたが、皆さんに見ていただきとても嬉しかったです。なかなか活動を見せる機会がなかったので展示ができてよかったです。
----------	---



演劇部	文化発表会に向けてそれぞれ全力を出せました。仲間で、いやチームとしてそれぞれの意見をお互いに言い合い、作品を完成させたことが1番の楽しみであり喜びでした！
-----	---



文芸部	この時期では2年ぶりの部誌発行を行いました。成瀬高校の皆さんに文芸部を知ってもらえるほぼ唯一の機会ですので、心を込めてつくりました。全40部がすべて成瀬高校の人々の手に渡り、とても嬉しく思います。
-----	--



生物部	今回我々は春に撮った写真を飾って展示をさせていただきました。部員全員が協力して制作したものは部活動の中で思い出に残る素晴らしいものになりました。
-----	--



吹奏楽部	吹奏楽部では4チームに分かれアンサンブルを披露しました。全員で演奏することができなかったのですが、チームごとに協力して今できる最高の音楽を作り上げられたと思います。今回の経験を次のステージに繋げられるよう、これからも頑張っていきます。
------	---



美術部	夏休み中は次回も活動できるのか曖昧で、制限された活動時間の中でやっていくのは不安でしたが、きちんと作品を完成させ展示することができて良かったです。
-----	---



ダンス部	コロナ禍で時間のない中、撮影場所確保や衣装決め、振りの練習時間がとても短く大変でしたが、動画ならではの演出や先生・部員たちの練習風景を見せることができ、とても貴重な経験になりました。多くの人に披露する機会を与えて下さりありがとうございました。
------	---



※ダンス部発表：当日は映像視聴



天文部	天文部では夏休み前からプラネタリウムの制作に取り掛かり、試作を重ねました。本番では多くの人に興味を持ってもらい、達成感とこれ以上ない経験をさせていただきました。
-----	--



櫛祭文化本部



3 年文化本部長 中垣内 啓輔

コロナ禍での行事開催は文化本部にとって初めてであり、本当に 1 から企画を立て困難なことも多くありましたが、なんとか成功を収めました。規模を縮小したことによりできなくなってしまったことも多くありましたが、このコロナ禍でクラス団結の機会を作れた事は良かったと思います。困難の中でも成瀬高校生の力を発揮できました。

3 年文化本部 安達 咲

文化本部として作業するにも密を避けて、大変でした。そんな中でも本部長を中心にまとまって仕事できました。文化本部では学年の差を感じませんでした。最初はみんな萎縮していましたが夏休みが明けるともう同学年のように親しくしてくれました。そんな環境を作ってくれた、本部員のみんなには感謝です。さて、成瀬高校には「櫛マジック」があると言います。そのマジックが作動したかは……文化本部に入るとたくさんの思い出ができます！入ことをお勧めします！！

2 年文化本部 鈴木 直也

僕は今回体育館装飾のトップをやらせていただきました。夏休みから計画を立て、文化発表会を盛り上げようと意気込みました。しかし、体育館の構造や部活動との兼ね合い、時間の制約など様々な困難がありました。その中でもできる最大限のベストを尽くして、このような形に仕上げることができました。

来年は僕達にとって最後の文化祭になります。コロナにも負けない最高の文化祭を作りたいと思っています。僕達と一緒にぜひ成瀬高校を盛り上げましょう！ぜひ文化本部でお待ちしております。

生徒会役員

生徒会企画として生徒オリジナルのうちわとチエキ撮影を行いました。チエキ撮影は看板制作中のうちわ完成後に撮りました。どちらの企画も好評でしたが、来年はもっと盛り上げます！

コロナウィルスが猛威を振るう中での開催と言うこともあり、今まで取り組んだことのない企画（閉会式後のビンゴ大会・全クラス Teams 配信で実施）に挑戦しました。何度も企画を練り直したり、たくさんの方々にも協力してもらい無事に実行できました。この行事で経験したことを後輩たちには来年生かしてもらいたいと思います。



新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、自宅学習や分散登校、行事の縮小、新しい学校生活様式による様々な制限の中、文化本部幹部生徒と4月から準備を進めてきました。

例年どおりの「祭」の開催は難しいということで、文化発表会という形にすることを6月に決定しました。クラス企画として「成高生の主張～コロナが教えてくれたこと」というテーマでクラスでメッセージを決めて看板を制作しコンテストを行うというもの、文化部の公演および展示での活動発表会の二本立てにすることにしました。それを決めるまでもに紆余曲折がありました。生徒の熱望する例年通りの文化祭「櫛祭ー文化部門」を開催させてあげたいという気持ちを胸に秘めながら、「あれもダメこれも無理」と言わねばならないことが辛く苦しく、悩みながら、できることを模索し話し合いを重ねました。

テーマに込めた思いは以下のとおりで、メッセージは、「コロナが教えてくれたこと～〇〇…」「コロナが収束したらしたいこと 〇〇…」という形で統一することにしました。



文化本部ミーティング中！

テーマ解説

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、我々の日常は大きく変わった。命や仕事を失う人が続出し、皆が以前当たり前にしていたことの多くができなくなった。我々高校生も、休校や分散登校で学校にいけなかったり、グループワークや部活動が禁じられたりした。机を合わせて仲良し同士、おしゃべりを楽しみながら向かい合ってお弁当を食べることさえできなくなった。寂しい、悲しい、つまらない、と何度も思わされた。しかし、そのような中でも、よい変化があった。家族と過ごす時間が増え、料理をしたり整理整頓をしたりと自宅での生活を大切にするようになった。何が必要で何が不要不急か、優先順位をはっきり意識することができた。学校へ通えることの幸せ、友達と一緒に過ごすことの喜び、好きなときに好きなところへ出かける自由の大切さを知ることができた。これからは、コロナが教えてくれたことを生かして、毎日を大切に過ごしていきたい。そんな今の気持ちを、言葉にして世界に向けて発信しよう。」

コンテストの結果、看板部門最優秀賞に輝いたクラスのメッセージは、「なんでもかんでもコロナに結びつけるの、やめてもらっていいですか?」というもので、苦境をものとしなくて不運を吹き飛ばす強さを感じさせるものでした。今は終わった直後で、担当としてはまだ落着いて振り返ることができていないのですが、感想を聞かれたら「感謝」の一言になります。



文化本部による片付け

文化本部員総勢65名、幹部の3年生8名に途中から2年生3名を加えた11名が皆優秀で、大変熱心に粘り強く取り組んでくれました。さらに、役職はないけれども幹部会に毎回参加してくれる準幹部のような本部員が自主的に増えていき、成高生の素晴らしさを実感することができました。

非公開での開催でしたので、お招きすることはできませんでしたが、生徒を支えてくださったご家庭の皆様にも、御礼申し上げます。来年度は、「祭」としての文化祭が開けるようになっていくことを祈りつつ…。

生活指導部 高木 玲子

